第 2016-45 号

恵みと真理のニュース

2016 年 11 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私の心と家庭に主の愛と平和が川のように流れるようにしてくださって、区域長の使命を楽しく担えるようにしてくださる神様を賛美します

　そればかりか、わたしの主キリスト.イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、　（フィリピの信徒への手紙3：8）私はこの世で一番知恵である者であり幸せな者です。イエスキリストを信じる信仰を与えてくださり福ある人生を生きるようにしてくださった神様の愛と恵みに感謝します。

　体が小さくて弱かった女の子がいつも部屋で"あの高い所に向かって行きます。”涙を流しながら賛美しました。歌詞に書かれた意味はよく知らなくても賛美すると心に感動を受け平安になりました。幼いころの姿でした。その時の私の姿を顧みると私に対する神様の計画と摂理があったと思います。私は仏教を信じる家庭で生まれて3歳になって腎臓に異常が出来て病院に行きましたが、医師は治らないと言われました。母はソウルで一番大きい薬局に行って薬を作って飲ませたり気を使いましたがどんな効果もなかったです。その時期、隣の家に住む区域長が母を伝道しました。娘が治るならどんな事もすると言った母はその時から熱心に教会に行って礼拝を捧げて、朝礼拝に生きておられる神様の恵みを体験しました。母の祈りと共に私の病気も少しずつよくなってついに完全に治りました。驚くほど事を経験して私の家はイエス様を信じる家庭になりました。祭事をしなくなり、多くの親戚もイエス様を受け入れました。生まれるときから体が病弱で学校生活もできない私でしたが母は教会学校にも行かせて礼拝を捧げるように教育をしました。

　私が中学生になると私の家がアンサンに引っ越しました。教会を探した母はチョヨンモク牧師の説教に大きく恵みと感動を受けてまだ、アンサン聖殿がなかった頃遠いアンヤン聖殿まで行き来して教会学校の中等部によく出席した私が時間が経って思春期と共にさ迷いました。高校生になって続けて神様に礼拝を捧げて聖歌隊で奉仕しながら心の一方では完全に主を信頼しなくて疑いと不信がありました。どころが、ある日、ふっと金曜徹夜礼拝に参席したい心が出来ました。それで、カバンに聖書を入れて授業が終わるまで待ているときに友達が聖書を見て"神様がどこにいるのか”と嘲弄し、からかいました。大きく落胆した状態でアンヤン聖殿に行って礼拝を捧げるため大聖殿に入って座りました。白いシャツを着ていましたが、自分の姿が汚く恥ずかしく見えて牧師の顔を見ることが出来なくて牧師が見えない柱の後ろの席を移して礼拝を捧げました。説教が終わって祈りの時間に私の信仰と友達のため祈りました。特に悔い改める祈りをする時には自分か恥ずかしくて自分の言葉で話せなくて聖霊様が異言で祈るようにしてくださいました。そのように祈りの中で明るい光を見ました。その光があまりにも明るくて目を開けないときに聖霊様が"私があなたを愛する。とする主の声が聞こえました。その御言葉を聞いて涙を流しました。信仰が弱くて生きておられる神様を疑って落胆をしたのを悔い改めました。

　その日から私の人生か変わりました。私のため命を捨てたイエス様の愛を知り少しでも愛に報いることが出来るのか考えたときにシホンに引っ越ししました。教会に奉仕する人が少なかったので幼い歳でしたが聖歌隊で奉仕をしました。夜遅くまで奉仕して子供たちを仕える私に神様は公務員試験を受ける機会を与えてくださり、安定した職業もくださいました。そして、青年部で奉仕する中で今の愛する旦那に出会って信仰の家庭を作りました。どころが、妊娠8が月になるときに急に私の右の顔に麻痺の症状が来ました。私と家族もみんな驚きました。子供を持っていたので病院の治療を受けることが出来なくて切なく神様を仰ぎながら祈りました。私ん顔が正常に回復しなくても相変わらず主を愛し仕えると念を押して祈りました。そのように祈りをする家庭で少しずつ顔が元に戻りきれいな娘も生みました。旦那の以外には神様を信じなくて今まで担えることが大変でしたがそれによって私の体が良くない影響を受けたと思います。しかし、私の心に憎しみと恨みの心が残りました。神様が喜ばない心を持っている時に今回には 肝臓に病気が出来ました。痛くて心も固くなり私のため祈ってくださる母まで憎みました。まだ、病院のベットにいるかわいい娘をみると恐れて心が痛かったです。そんな状況で牧師が病院に訪ねて来ました。私のため祈ってくださり、慰めてくださる瞬間、慈しみ深い主の声が聞こえて来ました。

　"娘よ。恐れるな、わたしがあなたと共にいる、恐れるな、私はあなたの神である。”揺れる私の心を愛の手で触ってくださりました。私は神様がなぜ、信じない家庭に導いてくださったのか知り、婚家の家族の救いのため切に祈るようになりました。

　主を信じ仕えるとしても表には 敬虔のようすだけあった私に主が区域長の職分をくださいました。主は従順する信仰と勇気を与えてくださり、火曜日ことに伝道をしています。病気になった魂を主の所に導いて治療を受けて怪我した魂を慰めて見守ることして主の心をよく知るようになり主の所に近くなりました。尊い職分をくださり従順するようにしてくださった、神様の恵みに感謝を捧げます。人を得る漁師になる尊貴な使命を担えるように願います。

　全ての礼拝が重要ですが、特に水曜礼拝を待ちながら御言葉の恵みを求めます。牧師が講義説教の御言葉を一節一節とおして真の生きる知恵を悟るようにしてくださり、目標と価値観を正しく成立して正しく教えるからです。そして、ある日から牧師が教会の多様な奉仕について話してくださいました。その説教にとても感動を受けて教会にある奉仕を愛するようになりました。聖歌隊の委員として、女子奉仕連合会の奉仕部員で、オルカン伴奏者で奉仕するようになりました。主が願うところならどこでも楽しく献身する熱情は主がくださった清い希望だったので完全になりたいです。小さいタラントをすべて神様に捧げたいです。

　神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。（コリントの信徒への手紙15：10）使徒パウロの告白が私の告白になるのを願います。そしていつも主の愛と恵みが川のように流れて聖霊で充満になるように祈りながらすべての栄光を神様に捧げます。

［信仰コラム］　良い結末が保障されている人

"主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい。主が町を守られるのでなければ、...”（詩編 127：1～2）

何事であれ過程が重要でありますが、結末はより重要であります。結末が良いと苦労した過程は美しい思い出になり、価値と甲斐があるようになります。しかし、最善を尽くして努力したら常に良い結末があるという保障はありません。では、最善を尽くして努力したら必ず良い結末に到達するようになる秘訣がありますか？このような質問に対して本文のお言葉に肯定的な答えがあります。

第一は、主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしいと記録されています。

イエス様は全ての人を家を建てる者に例えてお話しなさいました。費用と努力をかけて建てた家が洪水と風によって倒れたら家を建てた人の努力と苦労が無駄になります。その反面、その家が堅固に建っていたらその家を建てた人の努力と苦労が貴くなります。私達の結末が無駄にならないように生活する方法は神様のお言葉の上に家を建てるべきです。聖書に記録された神様のお言葉通りに行うことを言います。神様がノアに箱船を造るよう命令なさい箱船の材料と規模、建造方法を詳しく教えてくださって洪水審判を予告なさいました。ノアは神様が命じた通りに全て従いました。そうして生命の気息がある肉体が全て滅絶されたが、箱船の中にいる生命体は全て生きました。120 年間を忍耐して神様のお言葉通りに箱船を造ったノアの努力と苦労は無駄になりませんでした。結末が良いでした。

第二は、主が町を守られるのでなければ、守る者のさめているのはむなしいと記録されています。

イスラエルの民達が出エジプトしてカナンに着いた時、カナンにある町は大きくて堅固であり、人々は体格が壮大で強い武器と戦闘力がありました。しかし、神様が彼らを捨てたのでそのようなことは何の関係もありませんでした。エリコは堅固な城であったので城門さえ閉めていれば難攻不落でした。兵士は城を見張るために万般の態勢を整えました。しかし、そのような見張りと防備が無駄になってしまいました。神様の指示通りにイスラエルの民達が毎日城を一回回って七日目には七回回った後、一斉に喊声をあげたらエリコを倒れました。

人は自分が成し遂げて取得したことを失わないように様々な対策を立てます。しかし、人が決して守ることのできないことがあります。それは人の魂であります。人の魂は罪によって閂（かんぬき）が壊れ城郭が倒れた状態です。人が様々な手段と方法を動員しても自分の魂を守ることができません。神様が保護してくださらないと滅亡という最悪の結末を免れません。しかし、イエスキリストを信じる人の魂は神様の助けを被って天国に入る最上の結末が保障されています。

第三、あなたがたが早く起き、おそく休み、辛苦のかてを食べることは、むなしいことであると記録されています。

人が生活することに絡められて堂々めぐりするようになるといつの間にか老いて衰弱になってしまいます。人が望むのが現世だけであれば人生ということははかなくて空しいことに過ぎません。しかし、神様を敬い、命令を守る人にはこの世で行ったことが無益や無意味になりません。寝て起きて、食べて働くことが全て意味があって価値のあることになります。神様を敬って彼の命令を守りながら生活すると行った全てのことがキリストの審判台の前に立つ時に称賛と賞を受けることができます。

本文の最後には福のある約束が加われています。"主は愛する者に眠りをお与えになるのだから"と記録されています。神様のお言葉を聞いて行う人、イエスキリストを信じてその魂が神様の保護の下にある人、神様を敬ってその命令を従う人は心配と恐れを与える問題がある時にも神様が与えてくださる奇異な平安で眠ります。これは神様が安息と大胆を与えてくださるという意味でもあります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

だれでも私についてきたいと思うなら

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

クリスチャンと言うのはどんな人であるかと質問すれば “十字架に釘付けられてから復活したイエスキリストを自分の救世主に信じる人です。” と簡単に答えることができます。 しかし詳しく答えようとすればその分量が非常に膨大です。 多くの観点で言えるからです。 今日は “クリスチャンと言うのは聖書に啓示されたそのままのイエスキリストを信じる人だ。” という観点でよく見ようと思います。 キリスト教では異端似以非論争が初代教会の時から今日まで続いているのにその理由がこのようです。
キリスト教の信仰の究極的な目的は罪の赦しことと永生を得て天国に入るのです。 これを示して救いを得ることであると言います。 その救いを得る道が聖書に記録されています。
聖書は聖霊に感動された人々が神様から受けて言ったことなので聖書に記録された通り信じる人だけが救いを得るようになります。 教会は聖書の通り信じる人々の集まったクリスチャンは聖書のどおり信じる人を称えるのです。 そうするから聖書に記録されたお言葉を間違って教えて信じる人々の組織、集まり、教理そして信者を示して異端教派、異端教会、異端教理、似以非信者と言います。 聖書を読んでイエスキリストを信じると言う人なのに異端と似以非信者になる根本的な理由は聖書を自分が正しいと思って好みままで解釈して、イエスキリストに対して自分の判断のどおり信じるからです。
このような部類の人々を聖書でよく見ます。

1. イエス様が弟子とともにエルサレムを向けて道に行くところにあった事です。

ある人がイエス様に近付いて止めて言うのを “私は先生がどこにいらっしゃろうが先生に付いて行きます。” としました。 たぶんこの人は何回もイエス様の教えるに対して肯定的な関心を持って聞き取りしたし、イエス様が行う奇跡を通じて深い感銘を受けたようです。
この人はイエス様がユダヤ人が大望しているタビテの時代の光栄を回復する政治的なメシヤを思ったはずです。 もしイエス様の活躍でユダヤ国がローマの圧制を脱いでしまってタビテ時代の光栄と繁栄を回復するようになったらイエス様を側近になる人々は大きく出世すると判断したのです。 イエスキリストが彼に向けて “「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所がない」。” と答えました。 そのお言葉が彼に大変衝撃的に聞こえたはずです。 イエス様を信じる道には時々困難と逼迫もあります。 しかしイエスキリストにあって、イエスキリストのためにこれを忍耐すればそれによって得るよう賞と光栄があります。 だからイエス様を信じて従うとすればどんな苦難と逼迫があっても驚かないで揺れないという決断がなければなりません。

2. イエス様がパリサイ人との論争と子供を祝福なさる仕事でしばらく中断した 旅行をまた進行しようとする時であった事です。

ある人が駆けて来てイエス様の前にひざまつきました。 マタイによる福音書、 マルコによる福音書、ルカによる福音書に記録されたことを総合して見れば彼は若くて大きい金持ちで高い官職を持っていたし律法をまじめに遂行する人で紹介されました。 “ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。” と告げました。
これは彼がイエス様を人間の相対的な善を行う先生と思う過ちを犯したことを指摘したのです。
引き継いでイエス様が十戒命をおっしゃると彼が直ちに答えるのを “先生よ、これは私が幼いごろからすべて それはみな守ってきました 。” としました。 彼は律法の要求するところが何なのか分からなかったまま律法を守ると労力して来た人でした。 イエス様は彼のまじめさと熱情を珍しく見たが彼をいつわりでむなしい知識から脱するようにしようとこんなにおっしゃいました。
“もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。” 私を助けて下さいと叫ばなければなりません。 ところで彼は “悲しい気配をもって心配して” イエス様を立ち去ってしまいました。 人本主義的な思想や偶像宗教の教理で固着観念を持った人は単純明瞭した永生の道理を言ってくれても返って難しく思います。 救いと永生に対して自分が願う答をもう決めておいて質問を投げる人は結局悲しい気配をもって心配しながら立ち去ってしまいます。

3. イエス様の弟子と思いながら従った多くの人々ががっかりして離れる時であった事です。

イエスキリストがおっしゃるのを “もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。”（ヨハネによる福音書 6:51,54,55） としました。
イエス様の肉を食べて血を飲むという話はイエスキリストを信じてイエスキリストと一体になるのを意味するのにこれを理解することができなかった人々はイエス様を離れ去りました。
彼らの去った理由は彼らが期待して願うイエス様ではなかったからでした。
イエス様が１２弟子に “あなたがたも行こうとするのか?” と質問しました。 ペテロが答えるのを “神様、永生のお言葉のあるのに私たちが誰に行きますか?” としました。 イエス様が答えるのを “私があなたがたの１２を選ばなかったかしかしあなたがたの中に一人は悪魔だと。” しました。
聖書に付加するのを “これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。”（ヨハネによる福音書 6:71)と言いました。 イスカリオテのユダがイエス様を渡してやった理由がお金をもうけようとする目的だと断定することができないです。 何故ならば彼が大祭司長から受けたお金をもとの返りに持ってくれたからです。
それなら何の理由でしょうか? イスカリオテのユダは聖書に予言されたしイエス様が親しくおっしゃったようにメシヤに対する観念を持たないで自分が願うようにメシヤに対する観念を持ったから恐ろしい罪をおかしてしまいました。
それなら他の弟子はどうでしたか? 最後の晩餐後にイエス様が弟子を連れて甘藍山にいらっしゃりながらおっしゃるのを “あなたがたがすべて私を捨てよう。” しました。 ペテロが言うのを “すべてが主を捨てても私はいつでも捨てないでしよう。” したらイエス様が彼におっしゃいました。 “「よくあなたに言っておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」” するとペテロがもっと強く言うのを “私が主とともに死のうとも主を否認しないである。” したら、他の弟子も彼と一緒に言いました。 ところでその晩にイエス様が大祭司長が送った輩らに逮捕すると弟子の皆が逃げました。 ペテロはイエス様が審問を受ける現場で自分はイエス様が分からないと三度や否認しました。 彼らがこんなに処身したことは彼らが思ったメシヤに対する期待が崩れたからです。
イエス様がエルサレムを向けていらっしゃりながら弟子に自分が多い苦難を受けて殺されなければならないことと、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。
イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい” と告げました。
イエス様がペテロを大きく叱った理由はイエス様の苦しみ予告に対してペテロが自己中心的に判断して言ったからです。 イエス様が予告した苦難と死そして復活は神様の御旨でまたイエス様の御旨を現わしたのです。 ところでペテロはイエス様に対して自己中心的に思って期待しました。 彼は苦難と死という過程がないメシヤがほしかったのです。 イエスキリストのあがないの苦難と死を否定する理論と主張は皆サタンから始まったのです。 十字架に釘付けられる事ができなく血が流れてたまらなくて復活したイエスキリストだけが救世主という事実を否定する哲学と神学と教理は皆がサタンから始まったのです。 聖書に啓示されたメシヤに対するお言葉と考えと教えることは皆が異端に属したのです。 そして聖書と違い信じる人は皆が似以非信者です。

皆さんは自分が願い通りにあるいは多数の人が願う通りのイエスキリストに対する観念や信仰を排斥して聖書に啓示された通りのイエスキリストを信じて愛しながら伝えるように願いします。